

2026年2月17日

日揮ホールディングス株式会社
株式会社レボインター・ナショナル
合同会社 SAFFAIRE SKY ENERGY

愛知県東郷町、中部国際空港と 廃食用油の SAF 等への資源化促進に関する協定を締結

日揮ホールディングス株式会社（代表取締役会長兼社長 CEO：佐藤 雅之、以下「日揮 HD」）、株式会社レボインター・ナショナル（代表取締役 CEO：越川 哲也、以下「レボインター・ナショナル」）および合同会社 SAFFAIRE SKY ENERGY（代表者：高田 岳志、以下「SAFFAIRE SKY ENERGY」）は、愛知県東郷町（町長：石橋 直季）ならびに中部国際空港株式会社（代表取締役社長：籠橋 寛典、以下「中部国際空港」）と持続可能な航空燃料 SAF（Sustainable Aviation Fuel、以下「SAF」）等の原料となる使用済み食用油（以下「廃食用油」）の資源化促進を図るため、「持続可能な社会の構築に向けた廃食用油の資源化促進に係る連携及び協力に関する協定」（以下「本協定」）を本年2月16日に締結しましたのでお知らせします。また、同日に東郷町役場で石橋 直季町長ご参加のもと本協定締結式を執り行いました。



協定締結式の様子（左からレボインター・ナショナルの越川哲也代表取締役 CEO、中部国際空港の籠橋 寛典代表取締役社長、東郷町の石橋直季町長、SAFFAIRE SKY ENERGY の西村勇毅最高執行責任者 COO）

さらに、東郷町は、SAF で航空機が飛ぶ世界を実現するプロジェクト「Fry to Fly Project」にも参画し、町内の家庭などから回収した廃食用油を SAF ヘリサイクルする取り組みを進めます。

【協定締結に至った経緯】

中部国際空港は、廃食用油の国内資源循環による脱炭素社会の実現に向けたプロジェクト「Fry to Fly Project」ならびに国産 SAF（Sustainable Aviation Fuel：持続可能な航空燃料）の商用化および普及・拡大に取り組む有志団体「ACT FOR SKY」に参画し、廃食用油を SAF に循環させる取り組みを推進してまいりました。

中部国際空港が、県内自治体である東郷町と、国内で唯一の国産 SAF 量産設備を有する SAFFAIRE SKY ENERGY、出資者である日揮 HD、レボインター・ナショナルの 4 者を引き合わせたことにより、このたび、東郷町の家庭等から排出される廃食用油を回収して SAF に資源循環させるための協定

を締結することとなりました。

製造された国産 SAF は当面の間、中部国際空港をはじめとする国内主要空港発の国際線旅客機や貨物機の燃料として使用されることになります。

日揮 HD、レボインターナショナルおよび SAFFAIRE SKY ENERGY は、中部国際空港および東郷町と連携し、将来各空港において国産 SAF のニーズが拡大していくことを見据えて、町民に対する機運醸成を図り、廃食用油の資源循環をより一層推進することでカーボンニュートラル社会の実現を目指します。

【協定の主な内容】

- (1) 廃食用油の回収に関すること。
- (2) 東郷町内で回収した廃食用油を用いた SAF 等の製造に関すること。
- (3) 本再資源化を広く情報発信する機会の提供に関すること。
- (4) その他、本協定の目的を実現するために必要なこと。

【協定に基づく具体的な取り組み】

東郷町は以前から、町内 2か所の資源回収ステーションにて家庭で排出された廃食用油を回収しています。回収した廃食用油はバイオディーゼル燃料等に再利用していましたが、その用途は限定していませんでした。今回の協定に基づき、東郷町が回収した廃食用油をレボインターナショナルが収集し、国内初の SAF 大規模生産を行う SAFFAIRE SKY ENERGY のプラント（コスモ石油堺製油所内、2024 年 12 月完工）へ運び、国産 SAF の原料として資源化します。

加えて、町内の給食センターで排出される廃食用油も SAF の原料として活用します。

今後は、家庭系廃食用油の回収の利便性向上に向けて、資源回収ステーション以外の場所での回収のあり方について、民間事業者との連携も含めて検討します。あわせて、広報紙や給食だより等を通じて取り組みの意義や回収への協力を広く呼びかけます。また、Fry to Fly Project の教育資料も活用しながら、環境学習の機会の充実を図ります。

本取り組みは、町民の皆様一人ひとりが身近な行動を通じて温室効果ガス削減に貢献できる機会となるものであり、町民・事業者・行政が連携して、温室効果ガスの削減と資源循環の推進に取り組んでいきます。

【これまでの東郷町における家庭等から排出された廃食用油の回収実績】

回収場所 : 【家庭】東郷町中部資源回収ステーション、東郷町北部資源回収ステーション

【施設】東郷町給食センター

回収実績 : 【家庭】2,460 リットル

【施設】5,330 リットル



【国内初の SAF 大規模生産事業の概要】

日揮 HD とレボインターナショナルは、コスモ石油株式会社と共に、国内における廃食用油の収集から SAF の製造・輸送・供給に至るまでのサプライチェーン構築に向けて事業化検討を進め、2022 年に新会社 SAFFAIRE SKY ENERGY を設立し、国内で発生する廃食用油のみを原料とした年間約 3 万キロリットルの SAF の供給を目指しています。2024 年 12 月にコスモ石油堺製油所（大阪府堺市）内において SAF 製造装置の建設が完了し、2025 年 4 月から SAF の供給も開始しています。供給する SAF は、国際的な持続可能性認証である ISCC CORSIA 認証を取得しています。なお、本事業は NEDO（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）より採択※を受けた助成事業です。

※NEDO ホームページ : https://www.nedo.go.jp/koubo/FF3_100312.html



SAF 製造装置



SAF の原料となる廃食用油受け入れ施設

【Fry to Fly Projectについて】

「Fry to Fly Project」は、家庭や店舗などで発生する使用済み食用油を原料とする SAF を用いて、航空機が飛ぶ世界を実現するプロジェクトです。プロジェクトは日揮 HD が発起人となって設立し、設立主旨に賛同する企業・自治体・団体が、家庭や飲食店など身近なところで発生する廃食用油の提供を通じて、日本国内における資源循環の促進に直接参加しています。

特設ホームページ : <https://www.jgc.com/jp/esg-hsse/initiative/fry-to-fly/>



Photo by Tetsuya Tanaka

以上